

勤労全国大会の総破綻に 消耗し切る「本部」オルグ団

そのI

全国大会の破綻的実情を如実に反映して、全国大会以降も細々とアリのバイ的に顔を見せる「オルグ」団は、各支部で全く無視されて口も利けないか、あるいは問いつめられ顔も上げられない消耗ぶりを示している。

(元関東副青年部長) 田村某

昨今の「オルグ」の実態 (その1)

八月一三日、津田沼支部にて

▲「俺は総括できない……と思わず本音!」
 一時五五分、元関東副青年部長・田村某を責任者に、青年部二五名が「大会の報告」と称してやって来たが居あわせ乗務員の怒りに触れて玄関前で立往生。全国大会の惨状の数々をつきつけられて、ほとんどのメンバーは動揺して沈黙してしまふ。一人でいきがる田村は、「反合闘争を放棄し、新執行部も組めない今度の全国大会をどう総括するのか。お前自身の総括を出せ」と問い詰められ、「俺の能力では、そんなこと判断できないよ……」とひとこと。

昨今の「オルグ」の実態 (その2)

八月一四日、津田沼支部にて

▲笛ふけど……一向に踊らぬ下部メンバー!
 前日完全に権威失墜した田村「隊長」に代ってこの日は新幹線の札つきの革マル暴力分子吉原を「隊長」に青年部二五名が一二時到着。前日同様玄関前に対応する支部組合員に完全にやりこめられてぐずぐずになる。あせった「隊長」吉原は支部組合員に手をかけ、「よし、もういいぞ、かかれノ」と右手をあげて、後続の隊員に突入を「指令」したまではよかったが、かんじんの隊員は五mも離れて固まってボンボンつぶやきながらこの「隊長」の「指令」を完全に無視し全く動かず、一瞬シラケムード。ふり上げた右手のやり場もなく赤面する吉原「隊長」を見て「おい吉原君、誰も君に続かないじゃないか。しっかりしろよ」。全員大爆笑。

昨今の「オルグ」の実態 (その3)

八月一七日、新小岩にて

▲木皿・格和ら裏切り分子「防衛」に、クタクタ……
 全国大会の危機をなんとかペテン的にのり切ら

んと無展望に七名の裏切り右派分子を全国大会に狩り出した「本部」は、それ以降、大変なお荷物をかかえこんでクタクタである。新小岩支部では直ちに怒りの職場集会所が開かれ、裏切り者木皿・格和らへの怒りが集中し、連日、職場で追及行動が続いている。これら卑劣分子は一人で出勤・休憩・退庁することが出きず毎日「本部」に電話をして「防衛隊」の出動を願ってやっとその日を送るという毎日である。(津田沼支部でも同様)

「私怨」によって敵対に走ったこれら「狩り出し要員」はいずれは使いすてられる運命なのだが、こしはばらくは一応形だけの「防衛」の任務は果たさねばと青年部の革マル分子総動員で必死でくり出してきている。ちなみに、四名の裏切り者のために「防衛隊」の出動数は次の通りである。

月日	本部オルグの投入数	
	新小岩支部	津田沼支部
8月12日	24名	35名
13日	20名	25名
14日	8名	25名
15日	—	15名
16日	10名	10名
17日	8名	17名
18日	14名	15名
19日	11名	—
20日	20名	22名
全国大会以降の合計	115名	164名

津田沼での実態紹介に見られるように、「オルグ」の革マル分子が全国大会の敗北の結果に消耗しているが故に基本的に何も「防衛」できていない。

一例として、八月一七日新小岩での彼らの「オルグ」ぶり、「防衛」ぶりを紹介しよう。
 (1) 一時五分「第一波」五名が庁舎前で待機。裏切り者の「出勤」が終ると、この五名は昼食をとり近くのパチンコ屋で時間つぶし。
 (2) 一時四分「第二波」、パチンコの景品の袋をさげて再び庁舎前に集まる。次の裏切り者の「出勤」時間だ。しばらくして待機の後近くの喫茶店でコーヒータイム。
 (3) 一時四分「第三波」、八名。「ピラを見て下さい」とやってきたが居合わせた全員から口もきいてもらえず、しばらくして引き上げ。さすがに全員グッタリで、口をきく元気もなし。

以下次号!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

「大会の総括なんか俺の能力では判断できないよ……」

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!